

牛久：学校周辺に見る自然

第5号 牛久市、稲敷市、竜ヶ崎市

2013年5月25日発行

< 竹の秋と椎（しい）の春，花粉の運び手とめしべのつくり >



モウソウチクの紅葉、「竹の秋」と、スダジイの芽吹き、開花。 5.21竜ヶ崎市

「竹の秋」ということばをご存じですか？俳句の春の季語ですが、少し前から竹の葉が写真のように黄色～オレンジ色に紅葉しています。春に紅葉？と不思議に思うかもしれませんが、竹の仲間はタケノコを伸ばしたあと5月から6月にかけて葉を落とし、新しい葉がかわってのびてきます。

そしてよく見ると、写真左上にはてっぺんがもこもことブロッコリーのような木があります。黄緑というか黄白色のようにも見えますね。これは秋においしいシイの実をつけるスダジイです。ちょうど「竹の秋」と同じころに花を咲かせ新しい葉を開いてきます。もう少し、近づいてみましょう。



スダジイの新鮮な若葉と黄白色の花。まぶしい、もこもこの正体はこれでした！ 5.22竜ヶ崎市

さらにもっと近づいてみましょう。

雌花(めばな)の集まり



雄花(おばな)の集まり

昨年の雌花(めばな)の集まり

開花中の雌花の集まり、雄花の集まり、そして枯れ枝のような昨年の雌花の集まり。 5.22竜ヶ崎市

スタジイの1本の枝に注目してみました。今年伸びた枝の先の方から雌花の集まりが、少し手前の方からは雄花の集まりが出ています。そして、昨年伸びた枝からは、昨年の雌花の集まりがまるで枯れ枝のように出ています。枯れたように見えてもちゃんと生きていて、だんだんと「シイの実」に成長していきますよ。近くにあれば、ぜひその変化を観察してみてください。



めしべの柱頭
(花粉を受けとめる
ところ)

さらに近づいて雌花を観察しました。めしべの先(花柱：かちゅう)は3本が棒のように突き出ている、その先端に花粉を受けとめる柱頭(ちゅうとう)があります。花の香りが強く、雄花でみつを吸っている昆虫も見つきましたが、このときに体についた花粉が雌花に移動したときについて、シイの実の赤ちゃんができるのです。そして2年目にぐんぐんと成長して、秋にはおいしいシイの実になります。2年かけて成熟するシイの実、秋が楽しみです。



スタジイの雌花(左上)と、雄花のみつを吸うヒラタアブの仲間(左下)とマエアカスカシノメイガ(右)。5.22竜ヶ崎市

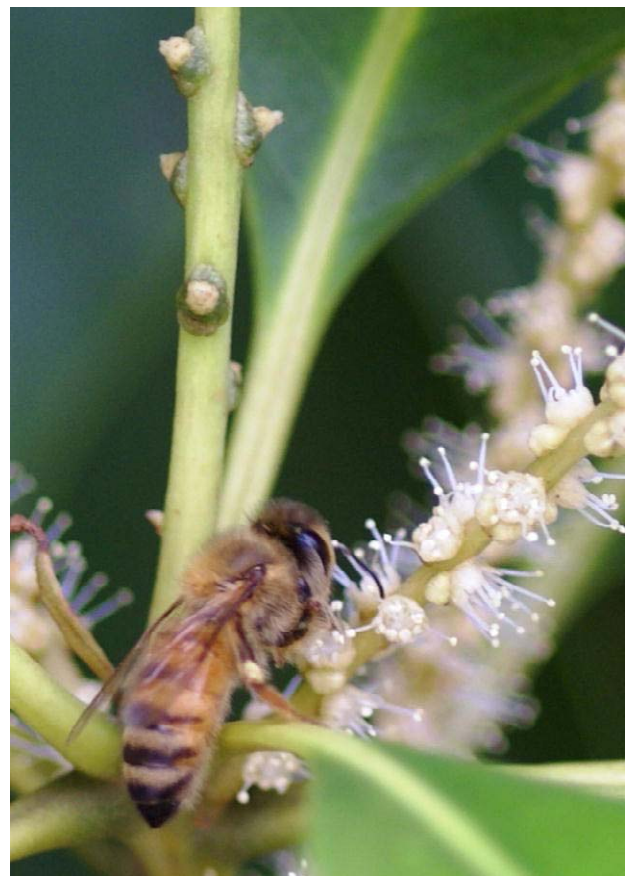


開花中の雌花の集まり、雄花の集まり、そして昨年の雌花の集まり。 2011. 6. 15 牛久運動公園

こちらは、6月に咲き始めるマテバシイです。こちらも果実は2年かけて成熟します。一昨年、下根の運動公園で写した写真ですが、めしべのさきは？ やはり棒のようですね。 ミツバチがたくさん来ていましたが、こちらにも似たような強い香りを漂ただよわせていました。



めしべの柱頭
(花粉を受けと
めるところ)



めしべの先が棒のようなマテバシイの雌花(左)と、雄花でみつを吸うセイヨウミツバチ(右)。2011. 6. 15運動公園



めしべの柱頭
(花粉を受けとめるところ)

開花中のシラカシ(左)と雌花(右)。香りはなく、めしべの先が広がり風で運ばれた花粉を受けとめる。5.16みずべ公園
つづいてこちらは、1週間ほど前にみずべ公園で咲いていたシラカシです。右はその雌花。香りを出しませんし、みつを吸いにきている虫も見あたりません。いつ来てもそうです。雌しべの先は？なにやら、べろのように広がっていますね。じつはシラカシの花粉は、虫ではなく風によって運ばれていくのです。だからめしべの先も広がって、花粉を受けとめやすく出来ているのかもしれないね。



めしべの柱頭
(花粉を受けとめるところ)

開花中のコナラ(左)と雌花(右)。香りはなく、めしべの先が広がり風で運ばれた花粉を受けとめる。4.28自然観察の森
同じような特ちょうが、4月末～5月上旬に咲くコナラにもみられます。やはり香りは出さず、雌しべの先もべろっと広がっていますね。みつを求める虫もきません。こちら風が花粉を運ぶのです。



めしべの柱頭
(花粉を受けとめるところ)

では最後に問題です。左はそろそろ咲き始めたクリの花(左が雄花の穂で、右が雌花の集まり)。めしべの先の特ちょうをよく見て、機会があれば咲き始めたクリの花の香りをかいで、クリの花粉は誰が運ぶのか考えてみましょう。もしかしたら、運び屋がそこに来ているかもしれません。

クリの雄花の穂(左)と、雌花の集まり(右)。 2011.6.17稲敷市

【理科支援員：宮内】